

るの は な

千葉大学医学部同窓会報 第81号 題字 鈴木 五 郎

編集兼発行者

千葉大学医学部

るの は な 同 窓 会 報 編 集 部

〒280 千葉市亥鼻1の8の1

千葉大学医学部庶務係気付

電話千葉(0472)22-7171内線2038

井出源四郎医学部長 (昭和19年卒) 第八代 千葉大学長に就任

香月秀雄学長の任期満了に伴う学長選挙は去る6月17・18日の2日にわたり行われ、井出源四郎医学部長が当選、8月1日付で第八代千葉大学長に就任された。

二期六年にわたる香月学長の任期中昭和54年に千葉大学は創立30周年を迎えた。最近、西千葉キャンパスの図書館本館塔屋に置かれさわやかな響きを流す大学の鐘に象徴されるように、この時期は総合大学としての歩みに一つの力を生み育てたとみられる。それをうけてある種の和の時代が予測される時期に、学部間交流をしばしば発言されて来た井出学長の就任は時宜を得たといえよう。

「今日の日本の社会情勢に鑑み、学内充実と最大の努力を傾注して総合大学としての実質を整備することが当面の課題であり、同時にこの大学の生れながらにして持ってきた特徴を發展させて、関東地域にある数少ない国立大学の中で特色ある総合大学を皆で築き上げて参らねばならぬと思います。大学に課せられた教育と研究という使命を後退することなく進めることは言を要しません。このことについてはもとより外への強い働きかけも必要ですが、内に向っても工夫を凝らさなければなりません。その基本として、各学部間

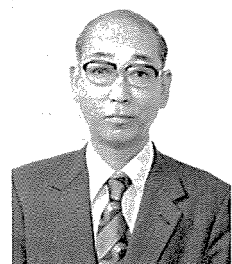


盃をあげる香月学長(左)
井出新学長(右)。学長当選の夜、祝賀パーティーにて

萩原彌四郎教授 (昭和23年卒) 医学部長に選出される

井出医学部長の任期満了(あわせて学長に就任)に伴う後任選出は去る6月28日午前に助手以上による予備選挙、同日午後教授会における本選挙の結果、過半数を得た萩原教授が新医学部長に選出され、8月1日付発令された。

今回の選挙は、年令的にも経歴の上でも医学部長として期待しうる方々が多く、その選挙は近來に



なくきびしい様相があつたが、学長選挙の激戦ぶりと合せてみて、

旧病院の改修、医学部本館としての再出発を成し遂げ、外に向つては医学における日中交流促進に関わつた等々の手腕を千葉大学全体の運営にひろげ、るの は な 同窓会員どなたも御存知の陽性で真つ当な活躍が期待されている。

なお、退官された香月学長は近く名誉教授に推挙され、やがて発足する放送大学学園の初代学長に就任が予定されているときいている。また本年度の「大学振興功労大賞」を受賞された。
井出源四郎学長略歴 大正9年長野県生れ。旧制松本高校より本学に進み、昭和19年卒。昭和40年教授(肺研)。昭和43年病理学第一講座を担当。昭和48年評議員。昭和53年医学部長。

見方によれば大学の安定を示すものともいえよう。萩原新医学部長は次のようにその抱負を述べられた。

この度、医学部長の重任をお引受けすることになりました。この時期―香月学長が退官され、井出先生が医学部長から新学長になられた現在、医学部にとても千葉大学にとつても一種のturning pointを迎えた時期に当るようになっています。すなわち更なる進展のための地固めも必要になって来ているように感じます。

香月学長時代の千葉大学はまさに飛躍的な拡充發展を遂げました。井出医学部長時代の医学部ならびに亥鼻キャンパスも且つて見たことのないような成長と変貌とを生みました。その事自体誠に慶賀すべきものと思います。しかし、このお二人の先輩を中心とした多く

昭和57年度

るの は な 同 窓 会 総 会 開 催

昭和57年度るの は な 同窓会総会は、6月19日午後3時30分より千葉京成ホテルにおいて有益常任理事の司会により開催された。小林金市会長の挨拶、井出副会長の学内近況報告、萩原常任理事の会務報告、物故会員への黙祷ののち、小林会長を議長として議事が進められた。石川清文常任理事より昭和56年度決算、昭和57年度予算案につき説明があり原案通り承認された。本年は役員改選の年に当り、

の方々の發展への意志と遺産を無にしない為には、作られた施設の運用を円滑にし、志向された将来計画の内容を充実させるべききめ細やかな整備を行なわなくてはならないであります。

これは地味な仕事です。しかし私に与えられた任務の大半はそこにあるような気がします。もとより非才の身、何程の事が出来るかわかりませんが、誠心誠意事に当って行くつもりです。なにとぞ絶大なご協力とご鞭撻をお願いいたします。
萩原彌四郎

「略歴」旧制一高(昭和19)千葉医大(昭和23)卒。薬理学教室の助手(昭和25)講師(昭和28)助教授(昭和35)を経て脳機能研究施設の教授(昭和41)。この間二年間(昭和33・35)西ドイツ留学。施設長(昭和45・57)千葉大学附属図書館亥鼻分館長(昭和53・57)併任。

次頁下段に掲載の如く会長以下の役員決定をみた。この他に評議員の改選も行われ、原案が承認されて向う3ヶ年間の役員人事が認められ、嶋田副会長より閉会の辞が述べられた。
総会講演は「これからの経済」と題し、千葉大学法経学部の伊東光晴教授が航空機や空港の發達、發展を材料に明快な話を進められた。ロンドンの空港問題につき語られた中で「質がよいものをと、

会 計 報 告

昭和56年度 決 算 報 告

昭和57年度 予 算 案

A 収 入 の 部

科 目	予 算 額	年度末収入計	差引高 (△減)
財 産 収 入	300,000円	279,660円	△20,340円
会 費 収 入	5,000,000	5,897,300	897,300
事 業 収 入	0	99,000	99,000
寄 附 金	100	179,334	179,334
繰 入 金	0	0	0
繰 越 金	3,475,634	3,475,634	0
収 入 計	8,775,734	9,931,028	1,155,294

B 支 出 の 部

科 目	予 算 額	年度末支出計	差引高 (△減)
1. 事 業 費			
会 報 発 行 費	650,000	577,020	△72,980
名 簿 発 行 費	400,000	336,000	△64,000
新 会 員 歓 迎 費	300,000	300,000	0
顕 彰 奨 学 費	200,000	0	△200,000
慶 弔 費	80,000	87,800	7,800
支 部 連 絡 費	300,000	110,000	△190,000
小 計	1,930,000	1,410,820	△519,180
2. 事 務 費			
備 品 費	50,000	19,800	△30,200
消 耗 品 費	150,000	127,255	△22,745
通 信 印 刷 費	1,800,000	1,476,670	△323,330
振 替 手 数 料	100,000	101,990	1,990
会 議 費	200,000	44,530	△155,470
諸 手 当 費	950,000	1,034,320	84,320
謝 金 費	100,000	98,850	△1,150
小 計	3,350,000	2,903,415	△446,585
3. 予 備 費			
基 金 繰 入 額	3,000,000	3,000,000	
予 備 費	495,734	0	△495,734
小 計	3,495,734	3,000,000	
支 出 計	8,775,734	7,314,235	
繰 越 額		2,616,793	

基 金 9,000,000+3,000,000=12,000,000

A 収 入 の 部

科 目	予 算 額	前年度比(△減)
財 産 収 入	300,000円	0円
会 費 収 入	5,000,000	0
事 業 収 入	6,000,000	6,000,000
寄 附 金	100	0
繰 入 金	0	0
繰 越 金	2,616,793	△858,841
収 入 計	13,916,893	5,141,159

B 支 出 の 部

科 目	予 算 額	前年度比(△減)
1. 事 業 費		
会 報 発 行 費	650,000	0
名 簿 発 行 費	5,500,000	510,000
新 会 員 歓 迎 費	300,000	0
顕 彰 奨 学 費	200,000	0
慶 弔 費	80,000	0
支 部 連 絡 費	300,000	0
小 計	7,030,000	510,000
2. 事 務 費		
備 品 費	30,000	△20,000
消 耗 品 費	150,000	0
通 信 印 刷 費	2,000,000	200,000
振 替 手 数 料	200,000	100,000
会 議 費	100,000	△100,000
諸 手 当 費	1,100,000	150,000
謝 金 費	100,000	0
小 計	3,680,000	330,000
3. 予 備 費		
基 金 繰 入 額	2,500,000	△500,000
予 備 費	706,893	211,159
小 計	3,206,893	△288,841
支 出 計	13,916,893	5,141,159

基 金 12,000,000

るの は な

同窓会役員

名譽会長 谷川 久治(昭2)
会 長 鈴木 五郎(大11)
副会長 小林 金市(昭8)
井出源四郎(昭19)
有益 忍(昭22)

会計監事

渡辺 佐藤 保雄(昭6)
武(昭27)

小林龍男名誉教授 喜 寿 祝 賀 会

小林先生は明治38年のお生れで去る3月5日満77才となられた。薬理学教室同門会はこの事を祝し、5月22日午後、津田沼駅前サンベディックで記念の講演会と懇親会を開催した。小林先生は「向精神薬と共に歩みて」と題して来し方を語られたが、お元氣そのもので参席者一同心より祝賀を上げた。

熊谷教授御栄転

富山医科薬科大学副学長に

第二内科の熊谷朗教授は8月1日付で富山医科薬科大学副学長(病院長)に栄転された。この人事は急ぎ行われたため身近の者も経

常任理事

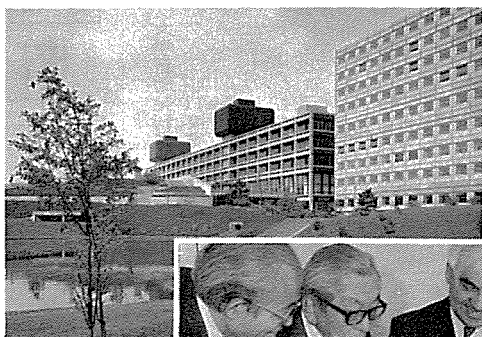
田久保 譲(昭10)
永井 義三(昭10)
小泉 隆(昭16・12)
内田 成和(昭17)
清水 衛(昭19)
国井 光智(昭21)
斎藤 弘(昭21)
伊東 宏一(昭23)
石川 清文(昭23)
萩原 彌四郎(昭23)
越川 衛(昭23)
稲垣 義明(昭26)
村山 智(昭26)
森 亘敬(昭26)
鍋谷 欣市(昭27)
奥井 勝二(昭28)
永野 俊雄(昭30)
滝沢 明祐(昭31)
井出源四郎(昭19)
有益 忍(昭22)

ゲッティンゲン大学との 姉妹大学協定成立す

高野光司(昭和33年卒)

五年間ゲッティンゲンで学んだハイネが歌った、「美しき五月、すべての花の咲き誇る」そのような日が5月13日でありました。この日大学クリニクの一隅で、千葉大学とゲッティンゲン大学の姉妹提携が、香月、カムプ両学長の協定書署名により実現いたしました。

この協定は70年代の始め頃、本間三郎教授と私の会話に上ったことにその源を発すると思います。79年以降の両大学の関係者の熱心な努力の後、82年2月17日G大で3月17日に千葉大学の評議会でい



▲香月学長を中心に
(左) 高野教授 (右) カムプ学長

▲ゲッティンゲン大学
(右) 病棟の一部
(左) 外来研究棟

東京ゐのはな会総会開催

昭和57年度総会が、6月12日、ロッテ会館で開催された。中村民比古会長の挨拶の後、昨年の物故者10名に黙祷を捧げる。例年の如く会計、会務の報告の後、会則変更の件が議題となり、本会にも名誉会長を置くこととなり、島田宗之前会長と加藤三郎元会長が万場一致で推薦された。

次いで役員改選に入り、新役員は次の通りとなった。

会長 中村民比古(昭13年卒)
副会長 山上健次郎(昭17年卒)
清川 素道(昭16年卒)
黒部 信夫(昭11年卒)
内藤 徹郎(昭22年卒)

伊東 宏(昭23年卒)
鍋谷 欣市(昭27年卒)
石村 貞雄(昭13年卒)
目々沢俊夫(昭25年卒)

総会の議事終了後、肺研外科、山口豊教授の「悪性肺疾患の新しい診断と治療」と題する学術講演が行われ、会員に多大の感銘を与えた。

続いて開かれた懇親会では、学長選挙で多忙な中を御出席頂いた萩原教授から、大学の現状を御話し頂き、また女子医大、遠藤教授から、東京ゐのはな会との会合(昨年10月)を期に、会員と女子医大との交流を計りたい旨の御発言が

ハイゼンベルク等五十の講演」が「これが我が大学の歴史です」と香月学長に進呈されました。千葉の贈り物は多くの方々から喜んでいただきました。

式後、日本政府代表前ブラーハ大使現ケルン日本文化会館長木本三郎氏、市長リンク教授、その他大学の要人等調印式出席者約70名のレセプションがありました。

香月学長は11日夜は、耳鼻科内藤講師一家とくつてフンゼン(バーナー)の住んでいたホテルで会食、小酌ののちを会を持ち、12日には、病院を見学され「こまかいことは兎も角、こんな立派な病院は見たことがない」と仰言って下さいました。

私共は大学百年祭(一八三七)に建った講堂で、もっと多くの人々に調印式に参列してもらいたかったのですが、そして式後にもそのような声が多く聞かれましたがカムプ学長は、竜頭蛇尾になるのを避けようと思ったのかもしません。この2月15日には、カムプ学長は、「言葉(英語を含めて)のできない学生を送らなくては当方の迷惑になる」という理由で、日本のある大学に交流を中断する手紙を書いています。

今までは、「日本の何処かの隅からやって来た奴」ですみましたが、今後は、「千葉」からおいでになるわけです。千葉から一流の方々が、どしどし当大学をお訪ね下さるよう願っています。

(筆者はゲッティンゲン大学医学部神経生理学教授)

々に調印式に参列してもらいたかったのですが、そして式後にもそのような声が多く聞かれましたがカムプ学長は、竜頭蛇尾になるのを避けようと思ったのかもしません。この2月15日には、カムプ学長は、「言葉(英語を含めて)のできない学生を送らなくては当方の迷惑になる」という理由で、日本のある大学に交流を中断する手紙を書いています。

今までは、「日本の何処かの隅からやって来た奴」ですみましたが、今後は、「千葉」からおいでになるわけです。千葉から一流の方々が、どしどし当大学をお訪ね下さるよう願っています。

(筆者はゲッティンゲン大学医学部神経生理学教授)

昭和57年春の叙勲

- 岡林 篤氏 勲二等旭日重光章
(千葉大学名誉教授、前第二病理学教授)
- 寛 弘毅氏 勲三等旭日中綬章
(千葉大学名誉教授、前放射線医学教授)
- 鴻 忠義氏 勲三等瑞宝章
(前防衛医大教授、元本学眼科助教授、元沼津市立病院長、昭和13年卒)
- 水間正冬氏 藍綬褒章
(昭和17年卒)

第7回

ゐのはな美術展開催

昭和57年7月13日〜7月19日、銀座七洋画廊にて開催した。出品者は19名、23点であり、今回は出品者が四・五名減り、会場に僅かに空白を感じました。来年度は7月12日を予約致しますので是非御出品下さい。7月18日懇親会の席上サライタ先生に御批評を受け、続いて銀座アスターで17名が出席して談笑致しました。なお千葉大学新旧医学部長に本展の作品を贈呈することになり、下記の作品、「新緑八ヶ岳」6F・島田通男、

「あぢさい」6F・大村光を贈呈しました。今回の出品者は次の通り、長谷川鎮雄、齊藤宗寿、齊藤篤、細井四郎、内田成和、長尾透、山口庚児、赤沢喜三郎、石谷治彦、神山英明、島田通男、山口宗彦、井上通、今井力、仲村長正、村上正中、本橋武夫、大村光、三輪清三(順不同、敬称略)

ゐのはな美術展事務所 東京都新宿区高田馬場一・二五・二九、石谷医院・石谷治彦(昭和24年卒)
電話〇三・二〇〇一〇七八

あり、会員一同意を強くした次第である。

出席者は40名。最年長は大正13年卒の江戸川区の紅谷庄吾先生で80才を越えられているのに御元氣な姿で、一同びつくりしたが、最年少が昭和32年卒、50才というのは、いささか寂しい気がする。魅力のある企画をたてて、若い卒業生諸君に多数出席して頂きたいと考えている。

神田尚忠(昭32年卒) 記

投稿

昭士会をめぐるあの頃の事

小山田 義雄 (昭和11年卒)

一、大学新聞発行誌(ア)

昭7入学昭11卒業の同級会の名である。昭和動乱のみ世を生き抜いた武士の集まりだと云う訳だが七と十一とをもちつて士とした。同時入学78名、同時卒業74名。予備少尉S.A.君が召集で北支戦線に在学中に散った。大東亜戦中の戦死5、戦病死、行方不明、他に逝去合計31名が名簿から姿を消す。卒業時は戦争にひた走り、ために国家総動員令の中の医師動員計画によって戦地に赴かない医者は僅か数名、残留者も軍医予備員に登録された。他方正12年のロシア革命以来マルキシズム尊者が日本にも台頭して右翼に對抗した。左右両派の激湍の合流点に身を置いて学生は夫々の学求の道を歩む。爪のマンキア程の赤化、軍医委託生を右翼とみ、左翼右翼のシンパも混在した。

猪の鼻台の一角に学生会館の建立がどうやら終って桜咲く頃の春に昭士会の面々は縁あつて千葉医大に入學した。車輛最も古く客席最も暗い総武線は両国を始発して東都を離れる。昭士会は千葉下宿組と東都からの通学組とに別れた。現在の東千葉駅が当時の国鉄千葉駅で通学組は左に要町、右に院内町を経て千葉神社角で左に裏通りに入り亀井町に抜けて都川支流を渡り更に大学丘下の溝を越して裏門から病院へ。或は溝川沿いに野

原を横切り基礎教室への小路をたどる。行程二十分、夏は汗だくの通学。歩くことが普通の学生生活の一端。昭士会通学部隊の中に谷内広(T.A.)君がいた。昭7年4月の初会合で級委員の選挙。発言第一席、T.A.君は千葉学生ののんびりムード、千葉商人の学用品の割高売り、学生食堂の飯のまづきを挙げて皆を驚かす。一理ありと彼を委員とする昭士会購買部が早くも誕生する。東大赤門消費組合の指導をかりて学用品の直買売が始まる。T.A.君を支持して通学部隊が運び屋の役を買って通学部隊に運ぶ。T.A.君は多く仲良く遊び共に勉強して一緒に4年間の生活を送る。

学生会館は南大ホールを中央に数部屋を配し運営は学生自治委員会に一任、3年4年生は離れて臨床生活に明け暮れるので1年2年生の委員の活用任される。只委員長は3年生から出し続けたが実力は2年予算委員に左右された。委員会の仕事を始めてから先輩の委員達の努力の跡に接した訳だが、中でもS.A.先輩(昭5入昭9卒)の活躍は大きく学生会館建築、遠く富士五湖山中湖畔学生寮開発、運動部への予算配分の確立等その足跡は大きかった。会館の部屋には購買部、文芸部、音楽部が決まり、他に20畳青畳の落付いた娯楽室は四囲の松林を窓越しに暮盤、

将棋盤、麻雀台を配備して休憩の時間つぶしに役立てた。会館玄閣左右の廊下はロビーを兼ね新聞見台を置いて閲覧に供した。この頃より学生の指向が文化部にも拡がり、同好会式文化部を組織化して予算による部活の土台を与えることに変わり、従来の運動部一辺倒の予算編成が改まる。文化部には新期に千葉医大新聞を発行せよとの声に答えて新聞部を開設するに至る。26×18半紙大の学内ニュースを一手に東都諸大新聞に並に拡大して千葉医大の活躍の状況を学内外に広める準備に入る。昭士会出身委員のT.A.君を出版責任者、編集責任者をO.Y.君(筆者)と決定し、従来運動部への予算配分は大巾に削減されて文化部に転配される結果となる。

二、大学新聞発行誌(イ)

新聞は一日にして成らず、東大赤門新聞部に赴いて紙購入、印刷手段、予算内で廉く仕上げる方法を学ぶ。部内二流新聞社の朝刊と夕刊の間の休止時の輪転機を利用して印刷してもらう智識。T.A.君の開成中学同級生のY.O.新聞印刷部勤務を利用、一時間で千葉医大新聞は五百部完成し、翌日通学部隊が学生会館に運ぶ。青春のエネルギーを一途に注ぎ込むT.A.君の実行力と情熱には只々呆れる許りで、これを心よく支援した通学部隊の努力も永く記録に残したい。

新聞発行の企画を知った学生主事T.O.法士はT.A.君とO.Y.君から発行の主旨の説明を求める。学内外先輩の活動状況の拡大報道の主目的である旨に主事は一

応了解の態度を示したが、発行の可否は大学当局の許可を要すると主張する。翌日T.A.君は内務省に出頭して新聞発行届を提出して来て終了。当時新聞法は届出制で言論自由発表を認め、他方検閲法を発動して内容を取り締ると云う仕組みであった。電光石火のT.A.君の働きにはT.O.主事も啞然として自治委員の行動を見守る立場をとった。T.O.主事は学生監としては中々の人物で四高、東大法科出身柔道四段の腹の据った紳士であった。

新聞パターンを踏み、論議、文芸、歌、詩、俳句、随筆の各壇、教授、先輩の言論壇を最重要に、研究進歩の紹介欄これに次ぎ、学内外先輩の活動状況を直接訪問で記事とする。

某教授に面接したT.A.君は予知せざる一大暗礁に衝きあつた。猪の鼻台と大学とは絶対に混合龍りならぬと劇しい怒りの一席をぶられた。他方医局巡りの一委員は外科K.O.先輩から「大学同窓会」と(あのはな会)とは別々の団体でこれが発言は(タブー)であるのはな会員は永い歴史を背景に社会的活躍と名声を築き上げているが大学出身者は浅浅く学外発展活動は皆無、K.O.先輩もこれが解決に苦勞していることの報告を得て来た。26×18級の会報の発行理由も判った。同窓会問題は正に暗雲低

迷っていた。編集委員は時に足を街中ののぼし、本千葉通り洋菓子店ホテイ屋の二階の喫茶部に集り一杯の珈琲で二時間に渡る談論風発となる。白エプロンを胸に前さげ髪姿の小

娘給仕嬢の迷惑顔も何のそのT.A.君はまくし立てる。社会に出れば誰でも先輩である、宜しく手を握り合つて千葉学派のため活動協力すべきで、我々はどうし、学外先輩の訪問を取行しよう。千葉市内最初の訪問先は当時隆盛のS.A.K.外科病院長だった。T.A.君の抜け目ない指導で学生出入りの食堂喫茶店、飲屋の広告料集めも出版費節約に役立った。一学期一回の新聞発行はかくて編集委員の努力がみのり見事発行となり、東都大学の諸新聞に伍して各教室、医局、訪問先の先輩他に東都諸大学へも寄贈した。

昭34・5・1千葉大学(あのはな同窓会報)なる新聞大会の会報が筆者の手許にある。それには「同窓会報の改版について」千葉あのはな同窓会長谷川久治署名の下に大略次の文が掲載されている。「今度から同窓会報は従来の形式を改め新聞様式を採用することとした。編集を医学部の学生有志に委託したが学生委員は何れも有能で熱意があるのでよいものが継続出来る」と確信している。発行回数位を予定している。今迄掛許りで実現出来なかつたが、これから予定通り実行可能な見込みがついた」云々。

昭57・4・25の千葉医学部同窓会報第80号は26×18半紙大の編集で縮小版であった。ちなみに(大学制の千葉医科大学同窓会)と旧医専同窓会(あのはな会)は昭和15年7月27日に一応平穩裏に合同の手打式を挙げたことを知っている。(終り)

中村奨学金について

中村武先生(昭20卒)のご寄附による中村奨学金の運用方針について、かねてから医学部長を中心に検討してきたが、この程その「運用方針」と「運用方針の取扱いについて」が決定し、元金が一千万円に達する明年度より活用されることとなった。すなわち元金は委任経理金とし、当分の間はそれより生ずる利子を助成金とし、次の範囲を対象として交付される。一、外国の学会への出席等国際的学術交流に関するもの二、医学の研究活動の成果の発表等に関するもの三、その他医学の学術研究に必要な事業に関するものその選考は奨学推せん委員会の議を経て教授会で決定される。

新名簿予約申込みご案内

発行予定 昭和57年11月下旬
予約価格 三千円(送料を含む)
規格 B5版 約四二〇頁
予約期 昭和57年10月末日
予約方法

折り込みの振替用紙をご利用下さい。三千円の振り込みをもって予約受付いたします。なおその他の送金方法でも結構ですが、その際は名簿予約金と明記して下さい。お問合せは医学部内のはな同窓会事務局(内線二〇三八)にお願いします。

帝京大学だより

第一外科 高田 忠敬 (昭和41年卒)

かつて日本橋が道程の基点となっていた時代では、東海道に次ぐにぎわいが中仙道だったそうですが、昨年8月縁があり中仙道仲宿近辺にある帝京大学第一外科学教室にまいりました。昭和41年卒業後、東京女子医科大学消化器病センターに入局以来、十数年にわたる東京での生活になったつもりでしたが、大学が変わると生活のリズムが変調すると申しますか、何か異和感があり、最近ようやく帝京大学の人になってきたとの感がいたします。私は、消化器外科、とくに、肝・胆道・脾・脾が専門で、東京女子医科大学から4人のグループでこちらにまいりました。症例も同窓の先生方が御支援にて増加の傾向にあり、誠にありがたく存じます。ただ、帝京大学では、他の新設大学も同様のことと思いますが、学生教育、試験などに多大な時間が教職員に課せられており、母校千葉大学とはイメージの異なる所があります。また、歴史が浅いので中堅層が少ないなど、不十分な所が多々ありますが、住めば都との諺の都にしたいとの心をもって日々すごしたいと念じている所です。

帝京大学の概要をお知らせしたいと思ひます。大学の母体である帝京学園は、沖永荘兵衛理事長によって昭和6年に創設され、昭和46年3月帝京大学に医学部が増設

千葉大医学部卒業生としては、第一生化学教室に植田伸夫教授(34年卒)、放射線医学教室に国安芳夫教授(37年卒)、整形外科学教室に山根友二郎助教授(38年卒)、一瀬正治講師(43年卒)、林道夫講師(42年卒)、救命救急センターに長谷部正晴助手(48年卒)がおります。また、第一外科学教室には、東京女子医大から私と一緒に赴任した内山勝弘助手(54年卒)がお

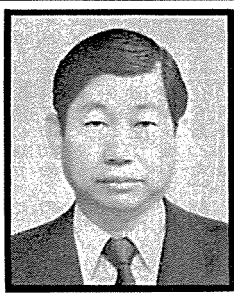


ります。千葉大の同窓の先生方には、帝京大学とは何か縁遠い感じをもたれるものと思ひますが、前述しましたように同窓生もがんばっておりますので、今後ともよろしくおねがいいたします。

故小林章男教授の死を悼む

つつしんで、わが級友故小林章男君の死を悼み、追悼の言葉を述べさせていただきます。

君は昭和31年に千葉大学医学部をわれわれと共に卒業され、第一内科学教室に入局後、大学院生と



して微生物学教室川喜田愛郎現名誉教授の御指導の下に、細菌学の研鑽を積まれ学位を取得されました。その後第一内科教室を経て、附属病院臨床検査部に入られ助教として感染症の研究に没頭され長い研究の中で培われた業績と本学における細菌学研究を推進するために、医学界の与望を担って本年3月には新設の第2微生物学教室教授に昇任されました。中央検査部に在任中は感染症相談室を設けられ、医学部附属病院内の各診療科は勿論、県内外の多く

の病院で病む感染症の患者の診断と治療に、真摯な態度で、徹底した追求心と熱意を以て、適切な助言を与えてくれました。近代医学の中でも依然として感染症で苦しむ患者は決して少なくありません。君は現在の話題の感染症に対する造詣も深く、臨床の場においても君の適切な助言によって救われ感謝している患者は少くありません。

多彩な様相を示す感染症の克服は臨床細菌学のより強力な背景なくして決して有り得ず、君が探求し、研鑽を積んでこられた感染症の研究は患者にとって大きな福音であり、またより複雑化していく感染症に対する深淵な研究はこれからさらに押し進められていかねばならぬ重要な課題であったのに君にとつて文字通り志半ばにして君の突然の御逝去によつて本学において全く断たれてしまうのは無念の一語に尽きるものと思ひますし、本学にとつても、医学会においても君を失ったことは大きな損失であります。しかし君の本学に残された感染症研究の偉大な足跡は、必らずや受け継がれ、やがては燦然と輝く結晶となつていくものと信じています。

君は何よりも誠実の人でした。患者達にもまた私達にも君を親愛する人の多きは、君の誠実一路の人格によるものと信じます。いま君に永久の別れの辞を述べるに当って、無念の心に強く迫られるのであります。小林君、君が本学と医学界に尽くされた大きな功績に對するわれわれの深い感謝の意と

限りない惜別の悲しみを受けて下さい。そして長くわれわれの胸の中に生きることを選び、安らかに

故小林章男教授のご遺志

5月13日急逝された第2微生物学教授故小林章男先生の未亡人から、先生のご遺志として猪之鼻奨学会に金百万円のご寄付があつた。奨学会は有難くこの金員をいただいたとともに、井出医学部長(奨学会常任幹事)が感謝状をみち子未亡人のお手許にお届けするとともに、永くこのことを記録し後進の育成に利用させていただくこととした。謹んで故教授のご冥福を祈るとともに感謝の意を表する次第である。

なお三輪徳寛先生のご高志による

書評 血痕鑑定 木村 康著

法医学の木村教授(昭24卒)が多年の経験を手頃な新書版にまとめた。『前夜の雨がまだ残っている薄曇りの早朝……』という書き出しが示すように、問題多い血痕鑑定についてすらと読み進めるような構成になっている。第一章にいさなり鑑定をめぐる諸問題をあげ、第二章で血痕検査の実際を述べ、第三章で基本的な血

永久の眠りにつかれんことを。医学部肺病研究施設外科教授 山口 豊(昭31卒)

つて大正4年創立された本猪之鼻奨学会はその定款の定める所により今日に至るまで多くの研究者の研究費を補助し、また学生に対する学費の貸与を行つて斯学の奨励に実績を上げて来た。この意義ある事業を更に推進する為には資産の増加を計ることが必須であり、意のある方々のご寄附をお待ちしている。ご寄附に対しては免税の措置がとられており、また使途指定のご寄附も可能なので、ご利用をお願いする次第である。

財団法人 猪之鼻奨学会

会費納入のお願い

郵便振替で会費納入をして頂いて居ります先生方に昭和57年度分の会費振込み用紙を同封いたしましたのでよろしくお願ひいたします。

(S・M)

クラス会だより

昭和33年卒
同期会

同期会

人間は頭髪から老化してゆくのであろうか。自然の摂理とは云え悲しい現象である。近年の同期会で、特に目立つのが、頭髪の白化と薄化である。今回も、久しぶりに出席した二、三人に接し第一印象であった。これでは、街で遭っても、見ず知らずの他人としか思えぬのではなからうか。遅参した一人がいつていた。別の会場へ入ろうとしているのではないかと一瞬戸惑った。とはいえ、顔立ちには20数年前と殆んど変わらない同期の桜。飲み進み、語らい進む裡に、自ら、学生時代の雰囲気浸ってゆくのが同期会の好い処である。

去る6月12日(土)神奈川県在住の四名(石坂・小野寺・森・相原)を幹事として、横浜は中華街の「金城」で同期会を持った。

出席者は前回より可成り増え、28名。この内、前回出席者は12名と半数を割っていた。これは、出席予備軍の多い事を物語っており、楽しい現象である。近年、出席者の増えているのも、銘々、五十路を迎えんとし、精神的、肉体的に幾らかゆとりを覚えた所為であらうか。遠くは栃木県壬生からの上山、静岡県浜松からの川名も顔を見せた。幾つかの円卓を囲んでの会故か、非常な盛り上りを

見せた。恒例に近かった、千葉・東京を離れての初めての会として盛況を呈した。

開会に先立って、小野寺の労作である名簿を配り、各人に交友関係を伝に空欄を埋める様依頼、名簿の完壁化を計った。話は弾み、一部では、卒後30周年を祝う記念文集発刊の事も囁かれていた。開会迄の3時間の何と短かった事か改めて、同期の交りの好きさを痛感した。今回は、千葉県残留組の幹事の下、千葉での再会を契って散会。

二次会は、半数余の同行を得て山手の麓「バンドホテル」7階「シェールーム」に席を移し、爾後の鋭気を養った。更に、宿泊組7名がヨコハマのブルーライトに眠りの帷を下したのは深更2時を回っていた。

因みに、同期生82名の内訳は、大学教授12、大学・研究機関職員8、勤務医17、都職員1、開業医28、家事2、不明10、死亡4名となっている。(相原茲明記)

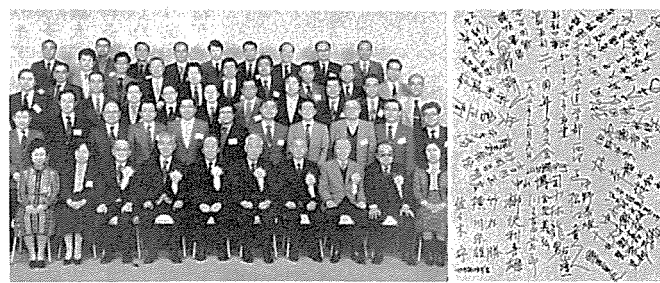
卒業20周年記念
昭和37年卒
クラス会

昭和37年医学部卒業生の卒後20周年を記念するクラス会が、春まだ浅い昭和57年3月6日、ちば共済会館で、恩師の小林龍男、竹内勝、柳沢利喜雄、川喜田愛郎、百瀬剛一、松本胖、横川宗雄の諸先生をお招きして盛大に開催された生憎の雨模様にも拘らず、遠くは沖縄から馳せ参じた宮里君をはじめ、青森(富士)、長崎(山口、福

島(十林)、静岡(中山・満野・吉川)からも駆けつけ、六割を越える出席となった。

小林龍男先生の御祝辞で開会となり、嶋田(文)・安達君の司会の下に会が進められた。基礎・臨床の順に先生方から温蓄のある御言葉頂いたが、そのお話ぶりは、かつての講義さながらの名調子で二昔前を思いこさせるものがあつた。

同級生も久しぶりの再会であつて、お互に近況を報告しあい、宴の進むにつれて学生時代の話や余興なども加わり、賑やかな談笑のうちにまたく間に予定の時間が過ぎてしまい、記念撮影を以てて散会となった。誠に楽しい一夜で

昭和57年度
五五会

(大原啓介記)

とき 57・6・12
後6・00～9・30

ところ 館山市見物

出席者 国民宿舎 鳩山荘

青木 淳、新井多喜男、

石神一良、泉 武、片山

喬、鹿島 洋、上牧順三、

木家豊美(令夫人同伴)、

桐原重徳、小林 賢、齊

藤正道、指田和明、佐藤

東正、志村昭光、加濃正

明、永野俊雄、清水良平、

高橋 康、高橋宣光(令

夫人及御子様同伴)、滝口

光雄、野本和男、山本輝

道、望月良夫、村瀬 靖

三橋駿一、橋詰定明、貴



永野教授が大学の近況報告をまじえて挨拶をし、井出教授への記念品(館山市無形文化財 唐棧織一反)を永野先生に託してお届け願うようにしました。次いで志村常任幹事報告で、ここ一年間に三人の畏友(熊坂順彦君、西川喜作君、石井誠一君)を失い、今また河野寿君の病、重篤との悲しい報告があり、物故者の御冥福と河野君の快癒を祈って黙祷一分。改めて乾盃、宴会に入る。地方では五五会とあつて、アトラクションとして当地館山出身のチビツ子歌手松永君の南総里見八犬音頭と房州地方のまつり太鼓を披露、引き続き各人の感想、近況報告に移り、各自独得なスピーチ、あるいはカラオケに抱腹絶倒し、夜の更けるのも忘れる。予定を一時間過ぎて後9・30散会。翌日釣(西川名)、房州CC、房州巡り等を行う。

(貴家、橋詰記)

計 報

岩津名譽教授御他界

岩津俊衛名譽教授(89才)は8月21日心不全のため逝去されました。つしんで御冥福をお祈りしつつ速報申し上げます。

編集後記

下旬になってこの8月は暑い。思い返したような秋暑の中で、ダブル選挙のあつた2ヶ月前のことを思い出す。当時の新聞の見出しには「学長に井出氏。決戦投票で決着。須賀氏に七票差」などある。5人の候補者は3回目医学部長と工学部長の対決となり、何と四六九対四六九と全く同票。従って異例の第四回投票となり七票差で井出学長に決った。医学部長選もまた力働同等の3候補の間、これまた少差で萩原医学部長となった。いづれも得票数の背景は重く、むしろ大学の安定化を示しているかも知れない。ところで間もなく清冽な秋の空気が大学に流れはじめ

(村山智)

あのはな同窓会報・編集部

奥井勝二(編集長・一外) 齊藤弘(国立千葉病院) 萩原彌四郎(脳研) 鍋谷欣市(杏林大・外科) 金子敏郎(耳鼻咽喉科) 小堀恒雄(産婦人科) 新美仁男(小児科) 増田善昭(三内科) 中野義澄(神経内科) 本号より村山智(薬理)が編集部に復帰。